

# ビワ生育情報

千葉県  
平成22年11月号

## 平成22年10月の気象

平成22年10月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第6半旬を除く全ての半旬で平年と同じか上回った。月平均気温は18.2で平年より0.3、前年より0.7高かった。

降水量は第2及び第6半旬を除く全ての半旬で平年を下回ったが、第2及び第6半旬の降水量は平年より著しく多かった。月合計は404mmで平年より151mm(60%)多く、前年より182mm(82%)多かった。

日照時間は第1及び第3半旬を除く全ての半旬で平年を下回った。月合計は90時間で平年より47時間(34%)少なく、前年より59時間(40%)少なかった。

表1 平成22年10月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温( )			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	20.4	20.4	20.4	25	40	47	26	20	16
2	19.9	18.8	17.6	207	72	102	19	20	15
3	20.9	18.6	16.9	20	33	1	24	21	39
4	18.4	17.8	17.9	3	43	0	6	22	27
5	16.8	16.4	15.8	27	32	10	9	24	16
6	13.7	16.0	16.5	123	32	64	6	29	36
平均/計	18.2	17.9	17.5	404	253	222	90	137	149

## 12月の作業 (花房の発育は次ページ)

ビワの枝葉や根の活動は気温が低下するとほとんど停止するが、一方で開花が続き、幼果はわずかながら肥大している。12月は寒害防止の準備を行い、来春の苗木の植え付け準備にとりかかる。

### 防寒の準備

本年の花着きは3品種共に平年より著しく多かった(後述・表2)。開花期は全般的に平年並みのようであり、寒害に充分気を付ける必要がある。毎年1~2月に強い寒波が襲来しているので、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるが、あらかじめその資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法があるので、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。

### 植え付け(定植)と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、寒波の襲来が少なくなる2月中下旬頃が苗の植え付けの適期となる。他の果樹より定植時期が早いので、植え付け場所の整備を年内に済ませておく。改植の場合には、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を

完全に取り除く必要がある。

新植の場合の苗の植え付け距離は3～3.5mで、10a当たりの植え付け本数は80～110本とする。樹冠が広がるに従って間伐を徐々に進め、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

### 台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、3個の台風が日本列島に上陸または接近したが、幸いなことにビワ産地では大きな被害は発生しなかった。強風によって樹が倒された場合には樹を起こし、損傷程度に応じて枝を切りつめる。

起こせない樹はそのまま栽培を続けるが、管理しやすいように枝を整理し、根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥を一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。

### 樹及び花房の発育

今夏は好天候だったため、樹の発育は順調である。着花房率は表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が99.0%、「大房」が95.1%、「田中」が96.7%で、3品種共に平年及び前年より著しく高い。3品種の平均値も過去36年間の着花房率の中で最も高くなっている。枝別にみても、中心枝、副梢共に着生は多い。また、花房の大きさは全般的にやや小さく、1つの花房に着生する花数が少なくなっている。本年のように、ほとんどの枝に着花するような場合は、結果枝の伸びが悪く、花房が貧弱である。また、開花期が揃ってしまい、幼果が寒害を受ける可能性が非常に高まる。様々な発育段階の花房が混在する状態になるように摘房・摘蕾作業を行う必要がある。

本年の出蕾期は「楠」を除いて平年より早かったが、10月の気温は平年よりやや高く、開花期は平年並みと思われる。11月1日時点で「楠」及び「田中」の開花は始まったが、「大房」の開花は始まっていない。開花の早い園では、寒害の影響を強く受けることも予想される。

クワゴマダラヒトリやアブラムシの発生は平年並である。本年はカメムシのエサとなるスギ、ヒノキの球果が平年より少ないため、来年のカメムシ発生量は少ないと見込まれる。

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

品 種	本 年 (%)	平 年 (%)	前 年 (%)
楠	99.0	77.1	41.8
大 房	95.1	71.3	47.2
田 中	96.7	73.6	40.3

平年：1974年～2009年の36年間の平均

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産者向け情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>